

かみ さむらい づか こ ぶん
上侍塚古墳

おお たら やつがみ
栃木県大田原市湯津上地内

R5第2回現地説明会資料 令和5(2023)年11月11日(土)

栃木県生活文化スポーツ部 文化振興課
宇都宮市埴田1-1-20 Tel.028-623-3425
公益財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫 474 Tel.0285-44-8441
<http://www.maibun.or.jp>

栃木県では重要遺跡を調査研究・活用する「いにしへのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」事業として侍塚古墳の調査を進めています。本年度は上侍塚古墳のくびれ部や後方部を中心に調査してきました。前回の説明会以降に調査を実施した箇所的成果をご紹介します。

a 後方部墳頂 (E0墳頂北トレンチ・N0墳頂東トレンチ)

後方部墳頂は江戸時代元禄5(1692)年の発掘範囲を明らかにするため、調査を進めています。

調査の結果、江戸時代の下の方墳表面(古墳築造から江戸時代までの堆積層)と考えられる土層を確認しました。江戸時代の方墳修復では約1.2mの厚さで盛り土をしていることがわかりました。



後方部墳頂東側の調査風景(南西から)

b 西くびれ部 (S35西斜トレンチ)

前方部下段の墳丘の斜面を確認しました。右写真のように急角度に造られています。

転落してきた葺石(ふきいし=古墳表面を覆う石)も出土していますが、その確認状況から前方部下段には東側と同様に葺石は置かれず、上段にだけ置かれていたと考えられます。



西くびれ部前方部側の墳丘斜面(北東から)

c 東くびれ部周辺 (E12くびれ区・S22東斜トレンチ)

前方部側では、墳丘の急な斜面を確認しています。

後方部側では葺石がどのように置かれていたかを確認するため、調査を進めています。

後方部東斜面の調査では墳丘の裾部を確認し、後方部の東西幅が約58.6mであることが判明しました。



後方部側の作業の様子(西から)



前方部側の墳丘斜面(北から)



後方部東斜面裾付近(東から)

d 前南部斜面 (E18前南部斜面トレンチ)

前南部南端を確認するために調査しましたが、後世の改変を受けており確認出来ませんでした。地山である固い砂や礫の層は南側の調査区よりも高い標高で確認されています。もともと墳丘に近い方が高い地形だったようです。



前南部斜面の調査区(南東から)

